

都市再生整備計画

はなまきちゅうおう

花巻中央地区

(都市再構築戦略事業)

いわて はなまきし
岩手県 花巻市

平成28年1月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	岩手県	市町村名	花巻市	地区名	花巻中央地区(案)(都市再構築戦略事業)	面積	76.0	ha							
計画期間	平成	28	年度	～	平成	32	年度	交付期間	平成	28	年度	～	平成	30	年度

目標

- ・交通ネットワークの再構築による快適な歩行空間の確保
- ・医療機能の充実強化、適正配置及び多機能化による市街地における安心な暮らしの実現
- ・遊休不動産とまちの資源を活用した民間活力による賑わいの創出

目標設定の根拠

都市全体の再構築方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための再構築方針)

花巻市は、平成22年に都市計画マスタープランを定め、市街地の拡大を抑制するとともに都市機能が充実した効率的で利便性の高いコンパクトな都市の形成や交通環境の充実による地域間の連携強化を図る「都市機能拠点ネットワーク型」の持続可能な都市構造の実現に向けて取り組んでおり、現在、まちなかへの都市機能の集約、強化と居住を誘導する立地適正化計画の策定を進めています。

この様な中において、かつて奥州街道沿いの城下町、商人町として栄えた土地として現在も城址や古い商家が残っている中心市街地は、戦災復興土地区画整理事業により整備され、近代的な市街地整備とともに商業集積も進みましたが、郊外での宅地開発の進展と大型商業施設の進出、高等学校や県立病院の移転によって空洞化が進行し、都市の中心としての機能がますます低下していく状況にあり、また、商業活動も停滞してきていることから、自家用車を持たない高齢者が医療や買い物など日常生活に支障をきたしています。

これらの状況を解決するため花巻市は、花巻駅周辺、商店街、県立花巻厚生病院跡地周辺を含む中心市街地を都市再構築戦略事業における「中心拠点区域」に位置づけ、市民が行き交い、医療など生活に必要なサービスを維持し、遊休不動産の民間活用によって仕事と賑わいを創出することによって、活力のある持続可能な中心市街地として再構築していくことを目指します。

そのためにまず、歩行者が街中で休憩や交流する憩いの空間となる広場の整備や花巻駅周辺と総合花巻病院移転先を結ぶ便利な交通ネットワークと安全な歩行環境の構築により快適な歩行空間を確保するとともに、商店街周辺の大堰川プロムナードへのアクセスを向上させて中心市街地における歩行者の回遊性の向上を図ります。

また、医療機能の充実強化と適正配置、多機能化により市民の暮らしの安心を確保するため、市は、県立花巻厚生病院跡地を取得し、総合花巻病院が行う病院施設の移転整備用地としての有効活用と高等看護専門学校、保育園及び特定生活介護施設などを併設した多機能施設を誘導していきます。

そのほか、遊休不動産とまちの資源を活用した賑わいの創出のために、まちなかの遊休不動産を民間活力により再活用して新たな仕事を生み出す取り組みを進めます。さらに将来、総合花巻病院移転した後の跡地に郊外から図書館を移転させ、民間活力を活かす多機能的な複合施設として整備し、中心市街地における新たな都市機能とすることを目指しています。

まちづくりの経緯及び現況

本市は、岩手県のほぼ中央に位置し、東北自動車道、東北新幹線、花巻空港、沿岸部へ接続する横断道路を備えた交通の要衝となっています。中心市街地のほか、幹線道路や住宅地整備を目的に、周辺部で土地区画整理事業を約400ha施行しています。

花巻駅はかつて東北本線と釜石線が交差する旅客・輸送の要衝として賑わいを見せていましたが、旅客便の削減や東北新幹線花巻駅が郊外に開設されたことから利用客は減少し、駅前商店街の活力も低下しました。この現状に対する危機感から花巻駅周辺開発の機運が盛り上がり、平成元年度から7年度までの間、新しい都市拠点としての市街地の整備と既存中心市街地の再生を一体的に行うことを目的とした「定住拠点緊急整備事業(レインボープロジェクト)」を実施し、賑わいや回遊性の高いまちづくりに取り組んできました。

平成18年には花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町の4市町が合併し、新・花巻市として歩み始めました。平成25年に作成したまちづくり総合計画では「市民パワーをひとつに歴史と文化で拓く笑顔の花咲く温ったか都市イーハトーブはなまき」を将来都市像として、公と民の英知を結集し、理想郷の実現を目指しているほか、立地適正化計画による多機能でコンパクトな都市形成に向けた取り組みを進めています。

<現況>

新市発足後10年で花巻市の人口は全体でおよそ6%減少しましたが、中心部の人口は約15%も減少しドーナツ化が顕著です。商業や医療施設、飲食サービスといった日常生活に必要な施設もこれと並行して減少する悪循環が進行しています。

課題

- ・ 中心市街地の幹線道路の一部では歩道が未整備で、坂道が多いにもかかわらず歩行者が休めるような憩いの場も少ない状況です。高齢化社会にも対応した「歩き易さ」の充実を図ることが望まれます。
- ・ 都市部において市民が安心して暮らすことができるよう、中心市街地の核となる医療施設の機能充実、多機能化が望まれます。
- ・ 中心市街地は本来、最もインフラが整った暮らしに便利な地域です。市民がこのことを再認識し、市街地の賑わいと活力を取り戻すため、遊休不動産の再活用により飲食、販売、居住、交流などの多様な都市的機能を新たに生み出し、仕事と賑わいを創出していくことが必要です。

将来ビジョン(中長期)

【総合計画】

将来都市像 「市民パワーをひとつに歴史と文化で拓く笑顔の花咲く温ったか都市イーハトーブはなまき」

・本地区は、本市の中心的役割を担う地域として、定住人口の誘導を図り、都市機能が充実した、効率的で利便性の高いまちづくりを進めることを掲げています。

【都市計画マスタープラン】

・将来像を「活力と交流を創造する 快適なまち はなまき」とし、「暮らしやすいコンパクトな都市づくり」「安心して住み続けられる都市づくり」「花巻らしさの継承による活力ある都市づくり」を目標として街づくりを進めていきます。

都市再構築戦略事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・ 花巻駅周辺と商店街周辺を結ぶ快適な交通ネットワークと安全な歩行環境を構築し、中心市街地における歩行者の回遊性の向上を図り、広場整備による街中での休憩、交流による憩いの空間の創出を図ります。
- ・ 市の交通拠点である花巻駅周辺については、市役所、県合同庁舎、教育文化施設、商業施設、医療施設などが集積する中心市街地であることから、立地適正化計画を策定し、公共機能の再編・再構築により拠点性を高めるとともに、業務機能やサービス業の振興による経済機能の活性化を図ります。その際の公益施設の移転建替は、中心市街地内において順次行い、都市機能の拡散防止と中心市街地への集積を図ります。
- ・ 中心市街地から離れている東和町、石鳥谷町、大迫町については、「小さな拠点」として日常生活を支えるサービス機能、地域コミュニティに維持・増進機能を高めていくほか、地域公共交通を確保しながら、中心市街地との連携を維持していきます。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な中心拠点誘導施設及び生活拠点誘導施設の考え方

花巻駅・花巻市役所を中心とする市街地を、立地適正化計画の「都市機能誘導区域」に設定し、未利用地の県立花巻厚生病院跡地に総合花巻病院を移転するとともに、高等看護専門学校、保育園及び特定生活介護施設などを兼ね備えた複合施設として整備し、まちなかの安心な暮らしを担保し、市民が行き交う拠点とします。

また、広場の整備や花巻駅周辺の道路の整備、公共交通網の再編により交通ネットワークを再構築し、花巻駅から総合花巻病院の移転先へ繋がるルートの快適な歩行空間を確保します。そのほか、遊休不動産を民間活力により再活用して新たな仕事を生み出す取組みを進め、中心市街地での花巻の魅力や特色を引出した新たな賑わいの創出を図ります。

都市再生整備計画の目標を達成するために必要な交付対象事業

・ 地域生活基盤施設(広場) 面積: 1,971㎡

民間商業施設の跡地であるエセナ跡地は、花巻周辺から続く商店街エリアの主要道路や大堰川プロムナードに隣接未利用地であるが、歩行者が外で気軽に休憩や交流ができるよう広場を設置する。

目標を定量化する指標

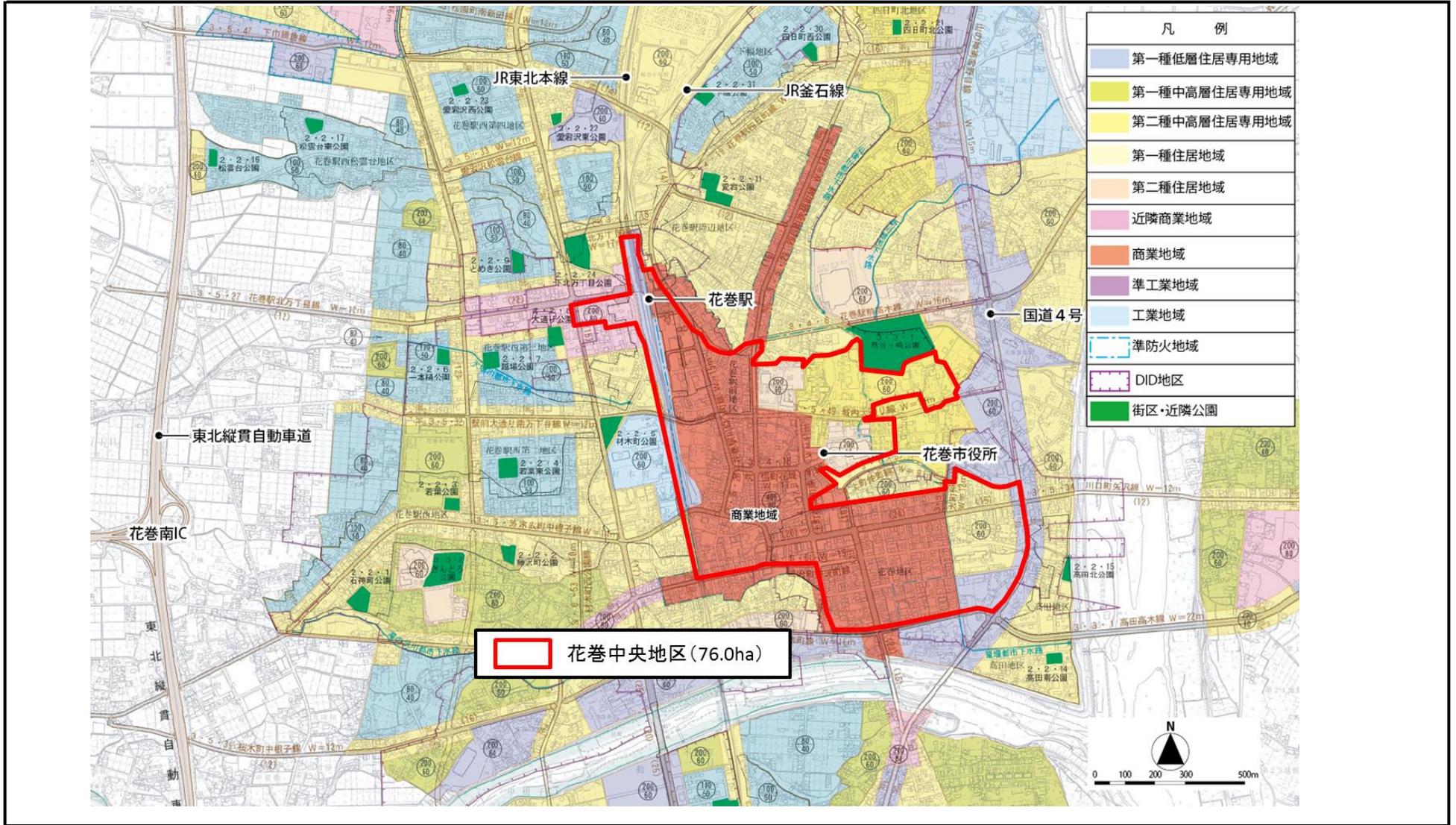
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
生活基盤整備状況に対する満足度	%	花巻市まちづくりアンケートによる調査結果(花巻中央地区)	交通ネットワークの再構築による快適な歩行空間の確保を定量化する指標として、道路そばへの広場設置や歩道設置、道路改良により、生活基盤整備に対する満足度を向上させる。	58.7%	H26	68.7%	H32
公益施設(病院)利用者数	人/日	病院、看護学校、保育所等における1日当たり平均利用者数	医療機能の充実強化、適正配置及び多機能化による市街地における安心な暮らしの実現を定量化する指標として、病院等の1日あたりの利用者を増加を図る。	626人	H27	1,011人	H32
空家リノベーションによる商店等の増加	件	花巻リノベーションセミナーを受講し、民間が中心拠点区域内において事業化したテナント件数	遊休不動産とまちの資源を活用した民間活力による賑わいの創出を定量化する指標として、市街地で事業化したテナント数の増加を図る。	3件	H27	15件	H32

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【交通ネットワークの再構築による快適な歩行空間の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花巻駅周辺の道路改良及び広場の整備により市街地での快適な歩行空間を確保し、既整備済みの大堰川プロムナードへのアクセスを向上させて回遊性を高め、魅力ある中心市街地を創出します。 ・中心市街地における公共施設、病院、商業施設等を結ぶ循環バスの運行の充実により既成市街地外縁部と中心市街地のアクセスを向上させます。 	<p>道路(上町花城町線):(関連事業/市) 道路(城内大通り線):(関連事業/市) 地域生活基盤施設(広場) 市街地循環バス増設事業(関連事業/市)</p>
<p>【医療機能の充実強化、適正配置及び多機能化による市街地における安心な暮らしの実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の行き交う拠点とするため、看護学校、保育所、特定入居者生活介護施設機能を兼ね備えた病院の整備を行います。 	<p>都市機能立地支援事業(病院、看護学校、)(関連事業/民間) 保育所等整備交付金事業(関連事業/民間) 特定生活介護施設整備事業(関連事業/民間)</p>
<p>【遊休不動産とまちの資源を活用した民間活力による賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休不動産とまちの資源を活用した賑わいの創出のために、まちなかの遊休不動産を民間活力により再活用して新たな仕事を生み出す取り組みを進めます。 	<p>未利用公有施設再活用事業(関連事業/民間) リノベーションまちづくり事業(関連事業/民間)</p>
事業実施における特記事項	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、「花巻市商店街振興組合協議会」、「花巻商工会議所」、「はなまきカード協同組合」、「花巻駅前商業協同組合」、「花巻中央地区振興協議会」が「どでびっくり市in花巻実行委員会」を組織し、「どでびっくり市in花巻」を開催し、にぎわいの創出に努力しています。 ・平成26年11月25日に「まちづくりと施設整備の方向」を公表し、立地適正化計画の制度を導入していくことを示しつつ、これからの人口ビジョンを見据えたまちづくりに取組むことについて市民向け・関係団体向け説明会を行って意見の聴き取りを行った。(59件の意見) ・市の代表的な料亭であった公有施設「旧まん福」の再活用策を東北芸工大(山形)と連携して検討を進めているほか、民間も加えたリノベーションまちづくり公開セミナーを開催し、当該施設を活用した事業化のマッチングを図る。 	

都市再生整備計画の区域

花巻中央地区(岩手県花巻市)	面積	76.0 ha	区域	花巻中央地区の一部
----------------	----	---------	----	-----------



社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称:花巻中央地区都市再生整備計画 都道府県名:岩手県

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○